

事業番号	09 03 06	事業改善シート（令和5年度実施事業分）		■当初要求	□当初予算案	□補正予算案	□点検
事業名	農業関係試験研究推進事業	部局	農政部	課・室	農業技術課		
		実施期間	不明	～	E-mail	nogi@pref.nagano.lg.jp	
次期総合5か年計画（答申書）との対応関係							
政策の柱	創造的で強靱な産業を育てる			持続可能で安定した暮らしを守る			

### 1 現状と課題

- ・農業現場の急激な構造変化に対応するため、農業をスマート化する技術と実用化が求められている。
- ・地球温暖化（気候変動）の農業生産に対する影響評価及び温暖化に適応した品種・技術開発だけでなく、二酸化炭素量削減など緩和策としての技術開発が求められている。
- ・多様化した消費者ニーズに対応した品種や革新的な栽培技術の開発が求められている。

### 2 事業目的

長野県食と農業農村振興計画で位置づけられた技術開発目標に基づき、農業関係試験場が具体的に設定した「農業関係試験研究推進計画」に沿って、持続可能で生産性が高い農業の実現のため、生産現場が抱えている問題に対応するとともに、試験研究から考える長野県農業の将来像を実現するための技術開発を推進する。

### 3 事業目的を達成するための取組

- ①生産力を強化し収益性を高めるための品種・技術の開発
- ・病害や気候変動への強さ、貯蔵性に優れるなど、多様なニーズに応える品種の開発
  - ・生産性向上のためのセンシング、AIを活用した省力で効果的な病害虫・雑草防除技術や施肥技術など、時代の変化に応じた先進技術の開発
  - ・果樹の凍霜害回避のための栽培技術など、現場の課題を解決する安定生産技術の開発
- ②地球環境に配慮し持続可能な農業を実現するための技術開発
- ・温暖化が農畜産物の生育、施肥、病害虫発生に及ぼす影響評価と適応技術など、地球温暖化に対応した技術の開発
  - ・ゼロカーボンに向けた農業由来の温室効果ガス削減技術や省エネルギー技術、また、総合防除に沿った病害虫防除技術や堆肥、緑肥の活用による化学肥料低減技術など、環境負荷軽減及び資源循環技術の開発
- ③農業分野の知的財産権の保護・活用の取組
- ・県オリジナル品種の登録や商標登録等の推進などによる保護と海外展開も視野に入れた知的財産戦略

### 4 成果指標

(推移の凡例 ↗ : 改善 ↘ : 悪化 → : 変化なし — : 数値なし)

No.	指標名	単位	R2年度		R3年度		R4年度		R5年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	実績	推移	見込値	推移				
①	新しく普及に移す農業技術数	課題	118	85	↘	100	↗	100	△	第4期長野県食と農業農村振興計画（答申書）で位置づけられた技術開発目標項目について、具体的な試験研究推進計画の達成目標として設定された開発技術数	
②	地球環境に対応した新たな農業技術数	課題	10	2	↘	4	↗	4	△	試験研究推進計画の達成目標として設定されている地球環境に対応（適応・ゼロカーボン）した開発技術について、過去の実績を踏まえて設定	
③	知的財産保護に関する研修会への参加人数	人数	628	560	↘	650	↗	700	△	試験研究推進計画の達成目標として設定されている県オリジナル品種等の知的財産権を保護・活用するために遵守を徹底する取組として、過去の実績を踏まえて設定	

### 5 事業コスト

(単位：千円、人)

区分	予算額				決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算	合計		
R5年度	(予算案)			0	△	164.0
	(要求)		498,591	498,591		
R4年度	0	418,699	36,594	455,293	155,232	164.0
R3年度	0	538,534	△ 88,910	449,624	144,719	427,121 164.0

事業名	<b>農業関係試験研究推進事業</b>	部局	農政部	課・室	農業技術課
-----	---------------------	----	-----	-----	-------

細事業 No.	細事業名	R3年度 当初予算	R4年度 当初予算	R5年度 当初予算
<b>1</b>	<b>運営費</b>	159,163 千円	68,759 千円	(予算案) (要求) 110,880 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（予定）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	試験場の運営・施設管理	直接	試験場の運営、施設管理を行う。 農業関係試験場施設の修繕や工事、備品設置の数：11 ●経年劣化による危険防止のための貯水槽撤去・新設及び法面工事（1か所） ●来場者のための出入口扉の修繕（1か所）、AEDの更新（1か所） など	

細事業 No.	細事業名	R3年度 当初予算	R4年度 当初予算	R5年度 当初予算
<b>2</b>	<b>整備事業費</b>	11,038 千円	11,038 千円	(予算案) (要求) 11,038 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（予定）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	農業関係試験場の施設及び設備の更新	直接	農業関係試験場の施設及び設備の更新・導入により、技術開発の効率的・積極的な推進を図る。 試験研究に関わる施設及び設備の更新・導入数：11 ●部分的に低温処理ができる「スポットクーラー」の新規購入（1か所） ●無菌操作ができる「クリーンベンチ」の更新（1か所） ●土壌、作物に含まれる肥料、栄養成分の分析ができる持ち運び型の「小型反射式光度計」の新規購入（1か所） など	

細事業 No.	細事業名	R3年度 当初予算	R4年度 当初予算	R5年度 当初予算
<b>3</b>	<b>研究推進費</b>	8,826 千円	8,302 千円	(予算案) (要求) 10,210 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（予定）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	試験研究の効率的な運営と知的財産管理	直接	試験研究の効率的な運営を行い、知的財産の管理や積極的な活用を促す。 知的財産保護に関する研修会への参加人数：700	

細事業 No.	細事業名	R3年度 当初予算	R4年度 当初予算	R5年度 当初予算
<b>4</b>	<b>素材開発研究費</b>	116,682 千円	123,498 千円	(予算案) (要求) 146,016 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（予定）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	農業生産現場のニーズに応えるための基礎知見の集積	直接	農業生産現場のニーズに応えるため、基礎となる「研究シーズ」を創出し、応用技術につながる基礎知見の集積を図る。 細事業4～7により研究に取り組んだ課題数：120	

細事業 No.	細事業名	R3年度 当初予算	R4年度 当初予算	R5年度 当初予算
5	県単プロジェクト研究	29,428 千円	26,697 千円	(予算案) (要求) 26,132 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容(予定)(上段:事業概要、下段:活動によるアウトプット)	
1	生産現場の緊急要望へ対応するための短期間(3~5年)で集中的な技術開発	直接	生産現場の緊急要望へ対応するため、各部門から選出したチームにより短期間(3~5年)で集中的な技術開発を行う。 細事業4~7により研究に取り組んだ課題数:120	

細事業 No.	細事業名	R3年度 当初予算	R4年度 当初予算	R5年度 当初予算
6	高度化等開発研究	104,460 千円	89,309 千円	(予算案) (要求) 101,188 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容(予定)(上段:事業概要、下段:活動によるアウトプット)	
1	農水省の競争的資金等を活用した国研や大学などとの協力研究による技術開発	直接	農水省の競争的資金等を活用し、主要農作物が直面する重要課題に対し国研や大学などとの協力研究により技術開発を行う。 細事業4~7により研究に取り組んだ課題数:120	

細事業 No.	細事業名	R3年度 当初予算	R4年度 当初予算	R5年度 当初予算
7	新資材試験等協力研究	68,978 千円	71,696 千円	(予算案) (要求) 71,927 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容(予定)(上段:事業概要、下段:活動によるアウトプット)	
1	国や民間企業、団体等から委託された研究を活用した技術開発	直接	国や民間企業、団体等からの委託された研究を活用し、長野県農業の発展に貢献する技術開発を推進する。 細事業4~7により研究に取り組んだ課題数:120	

細事業 No.	細事業名	R3年度 当初予算	R4年度 当初予算	R5年度 当初予算
8	養豚研究体制推進事業	39,959 千円	19,400 千円	(予算案) (要求) 21,200 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容(予定)(上段:事業概要、下段:活動によるアウトプット)	
1	養豚技術の開発を支援するため畜産試験場の養豚研究を再開	交付金	CSF(豚熱)の発生により停止していた畜産試験場の養豚研究を再開し、種豚を導入するとともに実験機器・分析機器を導入し、多産系母豚の飼養管理技術開発やアニマルウェルフェア(動物福祉)に配慮した付加価値の高い飼育方法の開発等を行う。 飼養管理に関する開発技術数:1以上	